

滋賀大学と保険関連サービスの高度化を図る
ビッグデータ分析の本格的取り組みを開始

2017年12月26日

MS&ADインシュアランスグループのあいおいニッセイ同和損害保険株式会社（社長：金杉恭三）は、国立大学法人滋賀大学（学長：位田隆一）と、保険関連サービスの高度化等を図る本格的な取り組みを開始しました。

当社は、2017年4月に日本初のデータサイエンス学部を開設した滋賀大学と、保険関連サービスの高度化に関する調査研究を推進するために「日本セーフティソサイエティ研究センター（JSSRC）」を、2017年4月1日付けで滋賀大学内に設置しました。

同センター設置後、調査研究環境の整備を進め、今般、本格的な取り組みとして、ビッグデータの分析を可能とする共同分析環境をアマゾンのクラウドサービスである「アマゾン ウェブ サービス（AWS）^{（注）}」上に構築しました。分析対象となるデータは、当社と滋賀大学の複数の拠点からのアクセス管理を厳重に行うとともに、セキュリティ・個人情報保護対策を施しています。

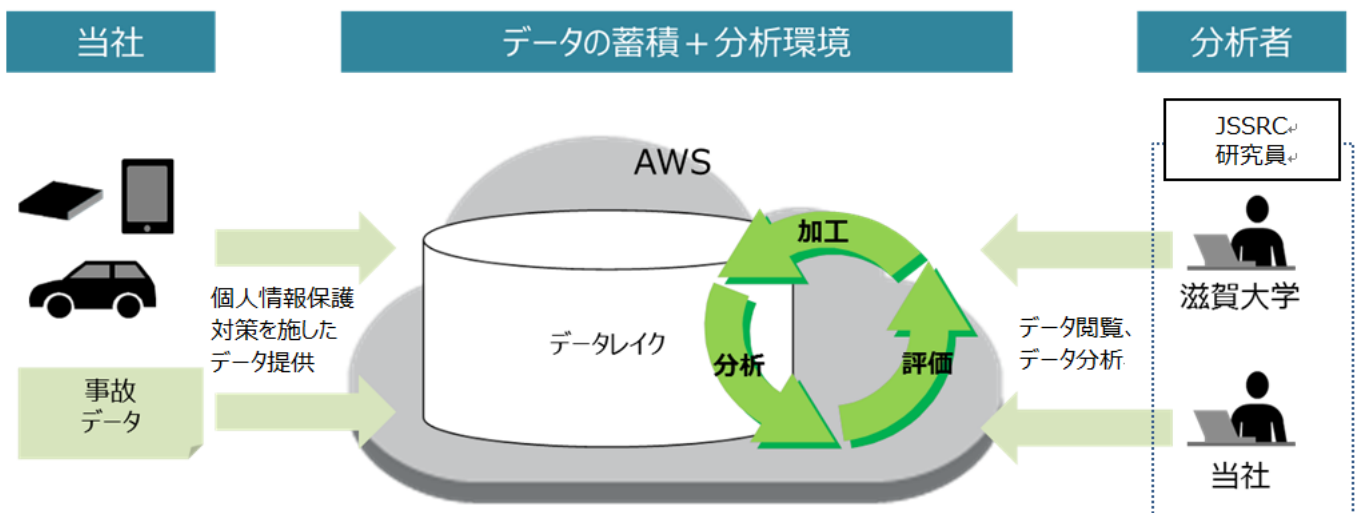
（注）アマゾン ウェブ サービス（AWS）は、米国その他の諸国における、Amazon.com, Inc. またはその関連会社の商標です。

当社は、米国のCambridge Mobile Telematics Inc.（CMT社）と協業してスマートフォンを利用したテレマティクスサービスを展開しており、当社営業車への導入、契約者向けサービスの「テレマティクスモニター制度」、事業者向けサービス「Bizセーフティ」により、約2,000万キロメートル（2017年10月末現在）を超える走行データを保有しています。今回は、まず日本全国で約3,000台配備されている当社営業車から得られた走行データを分析対象とします。

2015年3月に当社の子会社となった、英国のテレマティクス自動車保険販売の最大手であるBox Innovation Group Limited（BIG社）の60億キロメートル（2017年9月末現在）におよぶ走行データや事故データの活用も視野に入れ、調査研究を進めてまいります。

これらの分析環境や調査研究の結果を活かすことによって、事故要因の推定による安全運転判定の高度化、事故判定の精緻化等を図り、商品開発への活用や損害サービスの更なる高度化を図ります。また、安全な道路交通システム的设计に資するビッグデータ分析を活用した調査研究を行う等、幅広い領域における社会への貢献を目指します。

【日本セーフティソサイエティ研究センター（JSSRC）分析環境】



以上